

施策評価シート（平成25年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-6	政策名	健康づくりの推進	政策の 目指す姿	心身ともに健康に暮らしていま す	施策 主管課	健康づくり課	施策主管 課長名	伊藤徳明
	施策No.	1	施策名	健康づくりの支援	施策の 目指す姿	健康に対する意識が高まってい ます	関係課名	生活環境課		
	現状と課題	<p>・健康づくりに関するアンケートによると、本市では30代男性で朝食を欠食する人が増えており、また、1日平均塩分摂取量は国の目標値より高くなっています。</p> <p>・県民生活習慣実態調査によると、運動習慣のある者の割合が増え、1日の平均歩数も増加しています。しかし、男性の肥満は横ばいとなっています。</p> <p>・口腔の健康は、食事や会話を楽しむなど、日常生活を送るうえで重要な役割を果たしていますが、歯肉炎や歯周病の患者は増加傾向にあります。</p> <p>・市民の死亡原因の第1位は「がん」であり、特に大腸がんは、女性の死亡割合が高くなっています。自分の健康に関心を持ち、生活習慣病などの疾病や予防・早期発見をしていくことが大切です。</p>								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)健康づくりの取り組みの支援	<ul style="list-style-type: none"> 各振興センターやコミュニティ会議と協働で健康アップ講座を開催 自治公民館等で健康相談を開催 35歳の市民を対象に成人歯科検診を実施 40歳、50歳、60歳、70歳の市民を対象に歯周病予防検診を実施 食育講座や親子の料理教室を開催
(2)生活習慣病の予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> 禁煙教室の開催 医師会に委託して保健大学を開催 特定健診(メタボ検診)と特定保健指導、がん検診を実施
(3)感染症予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> 定期予防接種と任意接種(高齢者肺炎球菌、成人風疹)のほか、狂犬病予防などを実施

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
食事に気をつけている市民の割合	自分自身の健康維持・増進への取り組みとして、普段から食事に気をつけているかどうかを示す指標	出典:市民アンケート(毎年4月実施) 問:《健康管理》あなたは、健康管理について、日常生活の中で取り組んでいることがありますか。 (1)~(10)のなかで(4)食事に気をつけている(4)を選んだ市民の割合	%	目標値				53.4	55.2	57.0
				実績値	51.5	51.2	51.9			
健康増進のために意識的に運動をしている市民の割合	自分自身の健康維持・増進への取り組みとして、意識的に運動しているかどうかを示す指標	出典:市民アンケート(毎年4月実施) 問:《健康管理》あなたは、健康管理について、日常生活の中で取り組んでいることがありますか。 (1)~(10)のなかで(3)健康増進のために意識的に運動している(3)を選んだ市民の割合	%	目標値				32.7	34.6	36.5
				実績値	29.9	28.0	30.2			
定期的に健康診断などを受けている市民の割合	自分自身の健康維持・増進への取り組みとして、定期的に健康診断を受診しているかどうかを示す指標	出典:市民アンケート(毎年4月実施) 問:《健康管理》あなたは、健康管理について、日常生活の中で取り組んでいることがありますか。 (1)~(10)のなかで(1)定期的に健康診断などを受けている(1)を選んだ市民の割合	%	目標値				62.6	63.6	64.6
				実績値	58.2	60.9	61.6			

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
	成果指標に掲げる市民の割合については、それぞれH23からH25にかけて順調に推移していることから、健康に対する市民の意識は高まっていると言える。即効性は無いものの保健師を中心とした地道な健康教育の成果が表れていると考える。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	貢献度の判断理由
	事業内容(実績)			
1	健康教育相談事業	健康づくり課	A	健康づくりの意識啓発は、自分の健康に関心を持たせるのに最も貢献している。
	健康相談や健康教育を実施 (健康づくり啓発事業の延参加者 ㉔ 17,476→㉕ 13,503人)			
2	食生活改善推進事業	健康づくり課	A	生きる上での基本は食べること。食生活による健康づくりは、健康に関心を持たせ、生活習慣病の予防に貢献している。
	食育教育と食生活改善推進員養成講座を実施 (食生活改善伝達講習会の実施回数 ㉔ 202→㉕ 231回)			
3	健康診査事業	健康づくり課	B	がんや疾病の早期発見は、死因第1位(がん)の早期治療に有効である。
	がん検診と若年者健診を実施 (胃がん受診率 ㉔ 19.2→㉕ 19.2%)			
4	歯科保健事業	健康づくり課	B	歯科保健の推進は、歯肉炎や歯周病の予防に有効である。
	成人歯科検診、歯周病予防検診を実施 (受診者 ㉔ 1,368→㉕ 1,506人)			
5	感染症予防対策事業	健康づくり課	B	予防接種は、感染症の発生や蔓延、重症化の予防に有効である。
	予防接種法による予防接種の実施 (定期予防接種、任意の高齢者肺炎球菌・成人風疹の予防接種)			
6	感染症予防対策事業	生活環境課	B	予防接種は、狂犬病の人への感染予防に有効である。
	狂犬病予防法による予防接種の実施 (狂犬病予防接種 5,456頭)			
7	国保制度健全運営事業	健康づくり課	A	生活習慣病の減少は、健康に対する意識の向上と表裏の関係にあり貢献している。
	特定健診と特定保健指導の実施 (メタボ健診受診者 ㉔ 8,820→㉕ 8,740人)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

・施策の実現に必要な不可欠とは言いが切れないが、がん検診・歯科検診・予防接種等は、健康に対する意識の向上のためには、あって然るべき事業。

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

6 施策の総合的な評価

(課題)

- 健康づくりの意識啓発は、保健師による普及(教育)活動に頼る部分が多い。しっかりとマンパワーを確保する必要がある。
- がん検診の受診率は、特に胃がんの受診率が低く、受診率向上の対策を講じる必要がある。

(今後の方向性)

- 限られたマンパワーで効率的な事業展開を行うためには、選択と集中も必要。受診率等のデータを詳細に分析し、地域特性を踏まえた取り組み方法を検討する。